

第 1 回モニター会議開催結果の総括（案）

- 1 開催日程 10月29日（金）18時30分～20時
- 2 開催手法 オンライン（ZOOM）＋役場での参加
- 3 参加者数 モニター 16名（うち役場での参加5名）
町議会議員 16名（うち役場での参加4名）
- 4 議論テーマ 「SNS を活用した議会情報の効果と課題について」
 - (1) テーマの設定理由
令和3年度活性化計画の施策のひとつである「情報提供と説明の充実」について、具体的取組事項に掲げた「SNSによる情報発信の検証と見直し」について、外部の意見・提案を踏まえて検討するため。
 - (2) 課題・政策（「進捗工程表」から抜粋）
議会活動・情報を、よりの確・効果的に町民へ提供するための手法・手段の工夫・改善
- 5 議論を踏まえた共通認識
 - ・ SNS は情報発信手段（ツール）として不可欠であり、継続すべき機能である。
 - ・ SNS による情報発信の「結果」として、議会の「認知度向上」を目指すものである。
 - ・ 議会の「認知度向上」が、SNS の直接の目的とは位置付けない。
 - ・ 今後の課題として、双方向性の機能発揮の可能性を継続的に検討する。
 - ・ SNS は時間軸の一要素としての広報ツールである。
 - ・ 議会発信の主な情報として、議会白書は1年間の情報、議会だよりは1か月の情報、SNS は1日ごとの情報として区分し、役割を明確に取り扱う。

6 検証結果

(1) SNS を活用する目的

- ・ 開かれた議会の実現
(議会活動の見える化→議会活動の認識向上→議会への関心向上)
- ・ 地域住民のまちづくり参加へのきっかけ醸成
(選挙意識の拡大、投票率の向上、議員のなり手の増加等)

(2) 目的実現のための手法・手段

- ・ 新規登録者拡大への創意工夫 (拡散による他者への関心の輪の拡大)
- ・ 新たな議会情報ツール閲覧への創意工夫 (同一人物の関心拡大)
- ・ 多種多様な情報発信手法と目的設定の創意工夫 (柔軟かつ弾力的活用)
(例: 発信のタイミング: リアルタイム、事前発信、事後発信)
(例: 目的設定: 見るのみ、次の情報への誘導、議会への関心喚起の契機)

(3) 総論

- ・ 現行の「議会 SNS」は概ね適正である。
- ・ SNS による情報発信の最重要事項は「正確」かつ「適正」であること。
- ・ 議会が主体的に発信する情報を「タイムリー」に「わかりやすく」伝える手段。
- ・ 対象を絞り込んだ情報発信に有効な手段ではない。
- ・ 情報発信にあたり、インパクトやデザインも重視する必要性は低い。
- ・ 新たなツール導入にあたっては、「①認知度」「②操作性」「③安定性」「④経費 (導入・維持)」「⑤事務量」のポイントを総合的に判断し決定する。